

## 福州市友好都市提携 45 周年記念訪問団に参加して

長崎市議会議員 林 広文

### 【第1日目】

上海経由で福州長楽国際空港に到着。10年振りであるが、建物はすっかりリニューアルされていた。福州市外事弁の職員の皆さんのお迎えがあり、専用のマイクロバスにて市内へ。福州市での3日間は視察、移動は常に有限公司の方をはじめ中国側のお世話をいただく。

福州市外事弁室主催の夕食会では和やかな雰囲気で歓談する。福州市での宿舎は今年オープンしたばかりのホリデイイン福州であった。



宿舎から福州市内を望む

### 【第2日目】

朝8時30分に福州市海洋・漁業技術センターへ。長崎市との「水産交流協議書」調印式が行われ、長崎市水産農林部長と福州市漁業局長の両名がそれぞれサインした。この水産交流協議書は5年ごとに更新しており、前回5年前はコロナ禍であったため、リモートによる調印式であったが、今回は直接訪問でき握手を交わせたことは感慨深い。

両市の水産技術交流は単なる技術交流だけでなく、相互に水産研修生を派遣するなど、相互理解と友情を深めてきた。

その後、センター内を見学。45年前に長崎から渡ったアワビの種苗はその後、福州において改良が重ねられ、現在アワビ生産量は福州市が中国国内でトップになっている。品種改良したコンブも中国国内生産量の50%を占めるまでに成長しており、長崎市との技術交流

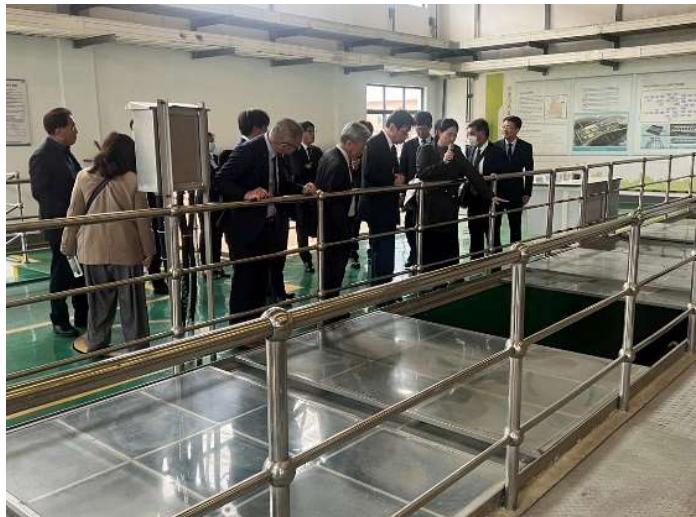
により育まれた海産物が福州市において主要な産業になっていることに誇らしくもある。



10時15分からは国潮博物館に移動し、福州鑑賞用金魚の栽培技術、養殖基地を見学した。金魚の養殖は福州市で最も規模が大きく、大きな産業となっている。

午後、13時30分より「洋里下水処理場」を現地視察した。

10年前も訪問したが、この処理能力は60万m<sup>3</sup>。長崎市の下水処理場は最大規模でも7万m<sup>3</sup>であることを考えると、とにかくスケールが全く違う。処理設備についても最新鋭のものが採用されており、もちろんコンピュータシステムにより集中制御されていた。



福州市との水道技術交流は34年目を迎えており、この間13回、延べ44名の長崎市職員が福州市を訪問している。

その後、15時に「飛鳳山浄水場」に移動。この施設は初めての訪問だった。この施設も規模が大きく、1日の処理能力は30万m<sup>3</sup>ある。本市で最も大きい手熊浄水場で8.5万m<sup>3</sup>であるので約4倍である。すべてにおいてスケールが大きいのが中国式である。

16時25分には「福州市水質検測有限公司」に移動。この施設は水質管理、検査などを行う民間企業であったが、国の機関に格上げとなり、福建省内のすべての河川の水質検査や企業からの検査依頼を受け付けている。最新式の設備により407項目の各種検査が可能。

2日目は水産、水道分野の計5か所を視察する強行スケジュールであったが、実りの多い視察であった。

### 【第3日目】

午前中は福州市の烟台山歴史的景観地区、上下杭歴史文化町を視察した。烟台山地区は租界地区として19世紀には福州の開港に伴い世界各国の領事館などが置かれました。長崎市の南山手地区と同じような歴史があり、現在は観光スポットとしても有名である。上下杭歴史文化町は中国と西洋の建築が融合した福州文化の特徴を有する伝統的地区となっている。

午後からは三坊七港を見学した。明・清時代からの街並みが保存されており、伝統工芸品などの展示も行われている。



17時からは福州市長への表敬訪問へ。鈴木長崎市長、岩永市議会議長とともに呉賢徳福州市長を表敬。活発な意見交換を行った。

呉市長からは中国唐の時代に日本の空海が福州経由で当時の長安に渡った史実の紹介があった。また、世界各国に拡がっている華僑460万人のうち、その多くが福建省出身であり、長崎にも福州市出身

者が新地中華街に拠点を築いていることに言及し、両市の友好をこれからも深めていくことの重要性を語られました。その後も今後の友好都市交流の在り方について、両市長より率直な意見交換が行われました。

両市長が対面において率直に意見を交わせたことに大きな意義があったと感じました。

#### 【第4日目】

空路、上海市へ移動。午後から上海国際貿易センターにて鈴木市長による長崎鮮魚のトップセールスに同行した。相手方は海産物輸入商社の「ワンフレッシュ」の王代表。

長崎鮮魚の中国への輸出は福島第一原発の処理水放出開始以降、輸入停止措置がいまだに解除されていないが、北海道産のホタテなど、一部輸入再開の動きがある。

王代表によれば、中国ではマグロが人気で、輸入停止前は長崎の鮮魚は上海経由で中国国内に広く流通しており、デパートなどでもよく売れていた、とのこと。輸入が再開されれば、更なる販路拡大は大いに期待できるとの発言もあった。

長崎鮮魚についても輸入再開のタイミングが近づいている観測であったが、日本国内での首相の国会答弁をめぐる問題により、日中関係が悪化し、輸入再開の目途は潰えてしまっている。

その後、上海市内の「南京路」などを視察した。



#### 【総括】

今回、福州市友好都市提携45周年記念訪問団として訪中しました。中国訪問は2回目となります。

11月10日からの4泊5日であったが、国内外で様々な事案が持ち上がった時期と重なり不安があったことも事実です。しかしながら、支障なく視察、交流することができ、温かく迎え入れていただいた福州市をはじめ関係者の皆様には感謝の思いでいっぱいです。

水産、上下水道分野での長崎市と福州市の技術交流、人的交流は10年前よりもさらに深化していると感じた。

中国国内では不動産不況もあり、景気低迷気味であるとのニュースも聞いていたが、福州市、上海市とともに10年前よりもさらに発展している印象であった。

日中間には国同士の関係において、様々な課題が横たわっていることも事実であるが、こういう時だからこそ都市間交流、市民交流など国同士の関係を越えて直接行き交うことの重要性を感じた。日本と中国の関係はお互いに引っ越しはできない地理的関係を考えると、困難な懸案はあったとしても互いの目を見て、胸襟を開いて話し合うことこそが肝要である。

今後とも、この交流が実りあるものとして継続できるように、普段から中国理解のための研鑽や、冷静な国際情勢の分析等、議員としての資質を高めるためにも、率先して取り組んでいく決意である。